

磨きのプロフェッショナル 小林研業 小林一夫さん 中之口西小学校

小林研業

1962年開業。従業員6人。iPodの他、SONYなど有名なメーカーのIT部品や医療器具、医療器具部品など高度な技術と品質を必要とする製品を数多く手がけています。エコカップなどオリジナル商品もあります。

世界のiPodは、
ここ中之口で
磨かれていた!!



小林一夫さん

Apple社も認めた磨きのプロフェッショナル。NHK「プロフェッショナル～仕事の流儀～」にも取り上げられました。

2007年2月、安倍首相が「頑張る地域応援プログラム」の視察で訪れ、磨き作業を体験しました。

ゆがみが出て苦労したiPodの鏡面加工にも成功。その仕上がりは、あのステープジョブズを、うならせました。



小林さんの弟子の光野さん。NHK「凄ワザ!」で、コンピュータ相手に見事勝利しました。その時に磨いたパラボラを見せてもらつと、まるで鏡のようで顔が映って見えました。まさに職人技です!



「立ち止まってはだめ。次から次へと考えて行動すること。」

多くの困難を乗り越えてきた小林さんの言葉です。磨きをかける時には、たくさんあるバフの中から、その製品の磨きに適したバフを選ぶそうです。小林さんは、このバフまでも、自分で考えて作ったと聞いて、さすがプロフェッショナルだと思いました。

※バフとは、円形の磨き布のことで、研磨の道具の命。磨く製品の材質によって適したバフを選び、それを回転させて磨いていきます。

「何でもやっちゃえ、なんとかなるさ。困った時の小林研業」

「できない」と言うことは嫌い。負けず嫌いな小林さんは、どんな仕事でも引き受けます。人がやらない仕事も、たった1個の仕事も。これは、技術がないとできないことです。困った時に、なんとかしてもらえる。それが、小林研業さんなのです。



「すべて教えてやる。10教えたら、また一つ開発すればよい。」

教えてほしいという人がいれば、何でも教えてやるそうです。テレビの取材もOK。すべて教えてしまったら、また次を考えるのだそうです。それが、結果的に、自分の意欲につながり、自分も成長できると、小林さんはおっしゃっていました。6年生の多くが、この言葉に感動しました。



エコカップの磨き体験をさせてもらいました。「簡単そうに見えるけど、案外難しいな。」

早くこのカップを使って、ジュースを飲んでみたい。



磨きの仕事も、おもしろそうだな。

たくさんの苦労や失敗を重ねて、ここまでたどりついたと言っていて、すごくかっこいいと思いました。

小林さんみたいに、新しい考えをたくさん出していける人になりたいと思いました。

中之口に、こんなすごい人がいるんだなあと思い、うれしくなりました。

大手の会社から頼まれたり、日本だけでなく、世界でも活躍されたりしていて、驚きました。

つなげる ~若者へ~

「この仕事を続けられるのは、スタッフのおかげ。」と、小林さんはおっしゃいます。小林さんは、従業員さんをととても大切にしている。いろいろな場へ勉強にも出されているそうです。こうして、磨きのプロフェッショナルの技術は、従業員さんへと引き継がれていくのです。



プレゼン教室の一部

つなげる ~地域とそして世界と~

地域の小さな工場が手をつなぎ、磨き屋シンジケートとして、日本全国に知られるようになったそうです。そして、また、この工場が韓国・タイなど、世界の国々ともつながっているそうです。私たちのふるさとに、世界とつながる凄ワザの工場がありました。



小林さんに学んだことをプレゼンにまとめ、授業参観で伝えました。